

## 6・傘寿は中国で



### 頭の中が空っぽだから

頭の中が空っぽな上に、下のほうにも穴が開いているのか……たった今したことも直ぐに忘れてしまう。しかし空っぽの頭の中の壁に少しは残っているものがあるのか……自分の名前を忘れないだけでも幸せである。

いつだったか2ヶ月間の教育を終え、みんな家に帰るため釜山に電話を掛けようとするが、自分の家の電話番号が思い出せなくてかなり長い間考えたことがあった。この程度に私の頭は空っぽになっているようだ。

やはり近頃も、初対面の挨拶をして、その人の姓だけでも覚えておこうと努力するが、翌日は姓さえも完全に忘れて、交換した名刺を探して確認することがしょっちゅうである。そんなにも頭の悪い私が若い人のようにきちんと出来る訳がない。

少し前に、ある人と会おうとイボンさん、カリヤンさん、そしてオジヨンテさんとチョリヤンの某学院という所で会うことにしたが、私が真っ先に到着して道端で待っていた。初めて行く所なのでキョロキョロ見回していたが、洞事務所から10m程先をオジヨンテさんが歩いて来られた。

私は懐かしさの余り近付いて行って「今日は」と言って握手した。ところで、眼鏡を掛けていないので「どうして眼鏡を掛けずに来られたのですか？」と尋ねもした。すると相手は「私はイサンテです」。私は心中これは大変なことになったな……と思い、「あ、失礼しました、人違いでした」と言いつつ5mくらい一緒に歩きながら、「学院は何処ですか？」と聞くと、「あそこです」と教えてくれた。「ありがとうございます」と言って立ち止まって、教えてくれた学院の方を眺めていた。

ところで、この方は何時何処に行ってしまったのか？いなくなった。世の中にはこんなにそっくりな人がまたといようなか……みんなと一緒に会っていたなら、並んで立たせておいて見比べてみたらどう言っただろうか……！と言う考えが湧いて来た。背丈も同じ、顔もそっくりの人は多い。人間だから、このような錯覚というものもありうるなどと言えば、みんなは言い訳だと言うだろう……！

このように考えることは、浮世の余りにも多い面倒なことに捉われずに生きて行くということだ。むしろ空っぽの頭からあらゆる考えを捨てて生きて行く

人生だとすると、過去もなく未来もない人生として現実だけを見て、心配も悲しみも喜びもみんな忘れ果て、現実に生きればよいと言うことなのか.....。

## 水は水だが

最近の水に関する話題が多くなった。浄水器が何種類も現れて、どれが本物なのか区別が出来ない。それで隣に住む妻の妹の家のように、3日に1度ずつ、山から流れて来る水を小さな水源地（タンク）に受けて、市水道設置前に竹を水道管の代用として水を受けて飲んでいた昔の風俗の一つを維持している所もある。

すなわち、今でも山水道のパイプだけプラスチックパイプに改造し、昔のまま月3,000ウオンの水代を払って40年前の生活の一部に固執する世帯があるが、これもやはり貴重なものの一つとして残っているのだ。夜明けに登山の目的で背負い袋を背中に担ぎ登って行く登山客が、水筒に山水を汲んで来るが、我々には山水道が正に山水なのだ。

我が家でも市水道設置後直ぐ、この山水道を撤去してしまったことを惜しんで、1斗入りのプラスチック容器を5個買って、3日に1度水が出るときに汲んで、飲料水としてのみ使用してきた。ところで少し前にソウルの孫娘が送って来た浄水器を設置した後は、山水の必要がなくなり、コーヒーを入れる熱湯も出るので便利に使用している。ところで少し前から隣の妻の妹が設置した浄水器の水が不思議な効果を現しているので、我が家でも設置してもらおうと申請した。

この水を飲んでから1ヶ月しか経っていないが、高血圧が治ったと言う人、ひどい咳がとても良くなったという人、前立腺肥大症で毎日薬を飲んでいたが、飲まなくても良いと言う人、糖尿病が治ったと言う話を聞いて熱心に飲んでいる人.....色々だ。昨日テレビをちょっと見たら、「ユジングランプリ玉水」なるものを著名な機関が開発したと言う報道がされていた。だから水と言うものは重要なものだと言うことだ。薬水でもないのに薬水よりも薬になる水は、本当に薬水でなくて何なのだろう.....？私はその設備を早くしてくれと督促してばかりいる。最近も妻の妹の家から毎日運んで来て、朝コップに2杯、寝る前にコップ2杯、昼間も度々たび飲むので、1日に1升は飲んでいる訳だ。

今までは私は水を沢山飲む方ではなかったが、最近では沢山飲む習慣がついたところを見ると、難しいことではない。昔でも良い水を飲んだが、今日のように水質検査が出来なかったので、お金のある両班は重さを量り、重たい水が良い水だと言って飲んだと言う。重たい水が良い水だと言うことは事実だと言う。更に付け加えると、人体はアルカリ性と酸性が調和しなければならない。均衡が破れると癌になるという。

## 夢の国に行きたくて

目が覚めた。何かの衝撃で目が覚めたのだ。11時過ぎの夜中だ。寝床も敷かずにそのまま横になって眠ってしまったから何時間か経ったようだ。妻は妹の家からまだ帰って来ていないようだ。頭の中がぐるぐる回る。

夕食を済ませ、今日の掲示板に載せる文章「水は水だが」を書き終えると一日が過ぎ 00:00 を越した。電話が鳴った。妻が妹の家には妹一人しかいないから泊まって帰ると言う。それではと私も灯りを消して眠ろうとするが眠気がしない。机の上の灯りをつける。カセットを枕元において、中に入っているテープはそのままにしてスイッチを入れる。日本の歌が聞こえる。こうしてつけたままにしておいて、夜中に乾電池が切れれば消えるだろう……と思い寝床で聞くことにする。

しかし眠ることも思い通りには行かない。眠気が訪れて私を夢の国に連れて行かなくてはならない。カセットで昔の歌を聞くのは、昔の思い出を頭の中に甦らせてくれる楽しい瞬間だ。だが既に11時まで眠って、遂にあくる日になったのに眠る必要があるか？時には眠らずにもっと生きなくてはならない。眠りもせずこのまま死んでしまったら後悔するだろう……！こうしながら新しい一日の歴史を飾ってやろう。蘇州夜曲はどんな曲だったかな……？もう一度幻想を描いてみよう。

## 夜通しボソボソ

少し寒気がして目が覚め、何時だろう？とデジタル時計を見ると3時だった。近頃気候が暑かったり寒かったりの気紛れの天気で、治ったりぶり返したりの妙な風邪に掛かり安心できない。昨日は外の遠くでボソボソという話し声が夜通し聞こえ、昔幼い頃、ボソボソと言う話し声は鬼神たちが話しているのだと言うので体がぞくぞくしたことを思い出しながら、何事か……？と思ったが、前のアパートの喪家を訪ねてきた弔問客が、夜、立てたり覆ったりする遺体を守って上げながら酒を飲むのだとか……花札を闘わせながら喪家のために一緒になって過ごして上げているのだ。

故人は90に近いおばあさんだと言う。隣の人の中でこのおばあさんを見た人はいない。引っ越して来てから幾らも日が経っておらず、道端に出て来たこともなく、ちゃんと振舞うことが出来なかったと言う話だ。このアパートは2階建てで4世帯が住んでいるが、建ってから日も浅いので綺麗な建物だ。我々は前の左側の2階に住んでいる人だけ知っている。娘と聖堂のレジオ会員であるからだ。故人たちは鬼神となり、共同墓地の隣の墓に向かって、今日は私の祭祀だから一緒にいって美味しい食事をして来よう！という、墓が開いて出て行くという昔話を聞いたことを思い出す。

## 傘寿は中国で（1）

知ればこそ力になり、知らなければ薬になるという言葉がある。中高生のアイドルが、6.25 事変がもう一度起きたらよい、と弁えのない話をするので、どうしてそう思うのかと問うと、面白そうだからと答えた。

このアイドルは、戦争をすれば漫画本を見るように面白く、自分と自分の家族は安全で、映画を見るようなものだと思っている。だが.....危険で残忍なことは見ないのがよく、知らないことは薬なのだ。

人間の頭を支配しているのは、生きて行くための力になる発展を意味するものだと思う。その発展が自分のためになるときは遣り甲斐があるが、他人が発展し我々は後退するのであれば大病に掛かったようなものだ。敵を知らず自慢たらたら弱者である自分を強者と思っていると、敗北に至る愚かさを後悔することになる。我々はどうだろう.....? 今一度振り返って見なくてはならない。

我々の暮らしが楽だと言って外国に援助などして、可哀想なわが国民は飢えているのに救援できないと言う実情を多く見受ける。お金のある人は外国に土地を買い家を買、非常時に逃亡する考えでも持っているとしたらどうなるだろうか? 鈍才の息子を持った財閥が、国内では大学に入学する自信がないから、予め外国に生かして大学を終え、一流大学を出たと自慢して満足する。

国が滅びても私は知らないと言って、わが国民の縁を切ってしまう実情だ。中国は13億の人口で、生活水準は底辺で喘いでいると思っていた。

我が国は話に聞いた限りでは暮らし向きの良い国だと分かってはいたが、しかし私程度の苦しい暮らしぶりの人間が、傘寿記念として中国に観光旅行だというのはこの上なく恥ずかしい気持ちだ。私は中国がどれくらい貧しい生活をしているか.....? を知り、私の忍耐力を養うのと学習の意味で、さる5月22日から27日まで5泊6日で上海、蘇州、杭州、桂林を回って来た。この6日間の目と耳でそして感覚で濾過されたものを表現するため、日記に記してみることにする。

5月22日(月曜日)曇

釜山国際空港から中国東方航空機で午後2時30分に出発、3時50分に上海空港に着陸した。ナムチョンデという現地ガイドとチェイルソンという現地ガイドが出迎えに来てくれた。我々一行は19名で、8組が夫婦組だ。影島居住の我々夫婦組は私の傘寿を祝ってくださる賀客に会える嬉しい気持ちで6日間を過ごし始めるのだ。

まずバスは大韓民国臨時政府旧址管理处という看板が掛かっている建物に入り、昔を生々しく想起させてくれる金九先生の大きな写真に先ず敬意を表することになる。6,000年前は漁村だった上海の歴史は、流れる水が変わり、綺麗な石造の建物も生まれ、高層林の中に人口1,350万人の大都市となった。次いで虹口公園の尹奉吉義士の爆弾投擲場所で、自分の生命よりも国の安危を慮った忠臣よ.....と、現世の売国奴と比較しつつ想起してみる。

国民の服務は週5日間勤務、休日2日だと言う。月給は2,000元(わが国の貨幣で30万ウォン)なら下流生活の水準で、月4,000元なら中流生活の水準だと言う。

中国ではホテルを酒店または大酒店と言う。飲食店は飯店と言う。トイレは

処所、洗手间、厠間または厠所という（厠の字はわが国の辞典にはない字だ）、尹奉吉の雅号は梅軒なので梅亭という東屋があった。夜は夜景を見物しようと黄浦江の堤防に出た。88ビルは一番大きな建物だ。三面からの夜景照明が華麗で、夜には脚光を受け市民の目を楽しませている。

## 傘寿は中国で（2）

5月23日（火曜日）晴

上海の宝隆賓館（ホテル）で06:00起床、06:40食事、バスで07:40出発。上海のナムチョンデ現地ガイド（忠南論山出身の僑胞3世）の卓越した案内に時間の経つのも忘れる。昔、丞相が流刑にされたこの地に庭園を造るとき、政府での失政を恨み嘆きながら拙政園と名づけたという所を見物し、虎丘塔と寒山寺を経て遊園を回ってみる。東部三省の有名な所は、1）黒竜江、2）ミョニョン城、3）吉林城ということだ。

蘇州からは梁金花（女）がガイドを替わって乗車した。76mに達するポイン寺塔は孫権が養母のために建てた塔だと言う。此処は行く所ごとに建物に掛かっている看板の文字が面白く、眼に入るままに見て行った。

梧竹幽居、山花野鳥之間、荷風四面、三十六鴛鴦館、盆景園、遠香堂、師子林、車維修（自転車修理所）、美髪庁（中国では男女が共用）。韓国では女子は美容室で、男子は美容院または理髪所で髪の手入れをするが、共用だと言うのが可笑しい。人口運河が1,800kmだというから広大だ。蘇州站（駅）をバスが通過する。虎丘山に登ると「ハンナ泉」と言う井戸の痕跡があるが、その横に「蛙」そっくりの形をした石が一つある。

昔、おばあさんが寺から下りてきて奉事（盲人）になってしまった。水が間違はなく出てくるという信念を持って素手で泉を掘っていたが、ここに住むある男が、奉事が泉を掘り出すことが出来るものか……と言って嘲笑いながらからかった。しかし井戸から水が湧き出るとともに、そのおばあさんの目が開き、その男は蛙の石になったという話だ。

最後に53段の階段を上がる。寒山寺に来て寒山寺の鐘の音に合わせ一步一步進んで、軽く大雄宝殿に入る。中国四大美人、1）王昭君、2）ソソン（呂布の夫人）、3）西施、4）楊貴妃、の行蹟が残っている所はないのだなあ。寒拾殿と弘法堂に行き、左のコンヘ法師、中央のヒョンジャン法師、右のカムジン法師を一瞥して出て来た。昼食は韓式の「アリラン」でとった。絹織物工場である外賓商場で蘇州綢緞煉染を手にとって、買うものは買って午後3時に蘇州を出発した。

農村風景は流水のごとく流れ去っていく。人家や建物は大概同じ型で2階建てだ。しかし人が住んでいるようではない。空き家のような。畑にも人が見えないが、時折作物を収穫する人が一人二人見えることもある。調べてみると、湿気が多い所では夏は2階で、冬は1階で生活するとのことだ。夕方8時には電灯をつけないという。電気料金がとてつもなく高いからだ。

しかし中国は改革解放後は急速度で発展し、観光収入が30%にも上るといふ。

杭州には午後6時10分に到着し、夕飯は韓式で中山大酒店でとった。中国は山がなく、無限で広大な平原で、大陸と言う字そのままの陸地で、杭州は三面が山で囲まれている特異な地理的条件にある。

杭州の友好飯店（ホテル）で旅の疲れを癒すべく、風呂の中に身を沈め、出てから寢床にもぐりこむ。

## 傘寿は中国で（3）

5月24日（水曜日）曇

杭州の友好飯店を07:10出発、今日の天気は19～35度になるとのことで心配だ。西湖の湖畔で、踊りながら鍛錬体操をしている老人達の健康体操は、わが国の国民体操を号令をかけずに無言で行うような奇怪なリズム体操だ。

三面が山で一面が都市となっている穏やかな平野を山が巡る、不思議な風流画を広げているようだ。両側のプラタナスの街路樹の間を通り抜けて西湖に出て、約50分間観光船で遊覧した。この観光船はバッテリーで動くと言う。水深は1～3mの湖水とのことだ。この湖水で魚釣りをしているのが見付ければ罰金刑になるという。水泳も禁止されている。

この湖水の水は1ヶ月に1回入れ替えられると言う。此処での絶景は、1) 雨の降るとき、2) 雪の降るとき、3) 夜景、という。六和塔は59.80mで、韓氏の孫が建てたという。

天湖珍珠工場を見物した。門を入ると珍珠の種類を区別できる試験をしてくれる。海水の中の全部には珍珠が1個だけ入っている。淡水の中の全部には珍珠が30個も入っている。わが国では真珠と言ひ、中国では珍珠と言っている。靈陰寺に立ち寄る。飛來峰の靈陰寺には338個の仏相があり、天主殿、大雄宝殿、薬師殿がある。竜井茶工場で「竜井問茶」の説明を聞き、特に問茶、品茶、感想茶という茶の嗜好を神格化でもするような口車に陶醉し、たびたび注いで飲んだ茶の味覚に、荷物の重さが加わる。西湖、竜井には朝鮮族三世が多い。

茶を点てるときには、コップに茶を茶匙で2杯、80～85度の湯を3分の1注いで飲む。続いて再び同じ湯を3分の2注いで飲む。100以上の熱湯で飲むと薬にならないという。特に糖尿病患者は冷茶を飲むと良い薬になるという。

一旦、杭州から2時間30分かけてバスで上海に行った。再び上海飛行場から桂林へと飛んだ。金剛山一万二千の歌があるように、山がそんなにあるのかと思ったが、桂林は年始回りの人が三万六千人だなんて言って人を驚かすものだ。11の少数民族に中では朝鮮民族と蒙古民族が優秀だという。桂林の現地ガイドはパクキョンソクという青年が替わって乗車した。

ジャン族という少数民族はその風俗が奇怪だ。18歳以上の娘は刺繍した球をハンカチに包み、気に入った青年に投げ、これを受け取って返してくれれば成功だ。だが3年間は娘の家に入って作男暮らしをしなくてはならないという。このような奇怪なショーを見るため、夕飯を済ませホテル2階に案内された。本当に面白いショーだった。冷や冷やする中国人の曲芸に楽しい時間を過ごした。

舞台から観客に何個かの球が飛んでくる。3～4個の球が飛んでくるので受け取って舞台上の円形の的を目掛けて投げ、命中して的を貫くと舞台へ上がってくるように言い、一緒に踊りを踊るとか、言われる通りに行動しなくてはならない。私は老人なので踊りも出来ないの、踊れといわれるのが怖くて隅っこに座っていた。

遂に、暗い隅っこに座っていた私にも球が飛んでくる。勇敢にも左手で受けた。ストライクだった。私は自信を持って受けたのではない。偶然に手を突き出したのが、象が後足で鼠を踏んで捕らえたような訳だ。万一私が舞台上の円形の的に投げたら間違いなくボールだ。そうだったらそれまでだ。私の手がぎゅっと握っている球のことを、かなり長い間考えた。いや、このまま記念品として私の部屋の壁に掛けておけば、未永く眺めながら私の心を慰めてくれるだろう。

結局は美しい娘さんが投げてくれたこの五色燦爛たる球は、その娘の香りが消えることなく、私の心を若くしてくれる。可愛い球だ。長い傘寿糸で飾られた球は、何時までも高い天井から吊り下げられている。

桂林の人口は60万人だ。11族の少数民族は、このほかにも女子を主とする民族がいる。女子1人に新郎を3人置かねばならないこの民族は女子が家長だ。桂林大酒店(ホテル)でその懐に抱かれようとするなら、温かい風呂で体をほぐし、抱かれなくては.....。

## 傘寿は中国で(4)

5月25日(木曜日)曇

昨夜は桂林大酒店(ホテル)で気持ちの良い夜を過ごし、今日の夕方また3440号室で甘い夢を見ることだろう。今日は何処をさまよおうのだろうか.....? 予定通り冠岩という洞窟を見物するのだろうか.....? それに先立って「イ江」での舟遊びから始めることになった。バスは走る。道端の看板を見てびっくりした。韓国でしょっちゅう見た派出所がある。草平派出所.....これは韓国でも中国でも同じ文字なので、韓国かと錯覚しやすい。

私が中国に来て、空を見ても地面を見ても人を見ても、韓国の「通り」と違う所がない。が、「通り」にある看板を見ると知らない文字が多く拒否感を抱いてきた。そうだ、中国だった.....と思って。遂に「イ江」の川辺に来た。小さな木船に首の長いあひるのような鳥が2羽座っていて、真横に行ってもぴくりともしない。「鶉」という鳥とのことで、これで魚を取るのだという。魚取り鳥で、魚取り漁夫だ。此処にあるトイレは「卫生间」と書かれている。厩の字はハングルと同じだが、そうではないようだ。

洞窟に着いた。洞窟の入口は、その印象がわが国のファソン洞窟を連想させる姿をしている。行列して洞窟内に入って行った。洞窟内の鍾乳石は上から流れ下って生じたもので、その真下で、上に向かって成長するものを石筍という。その華麗な光は三原色に燦爛と輝き、我々を恍惚とさせる。前の人に続いて限りなく下がったり上がったりしながら歩いて行き、田舎の簡易駅のような所で

止まって待っていると列車が入ってきた。見掛けはセマウル号の縮小版で、客車には屋根がない。全員乗車した。列車は走る。かなりの時間をかけて終着駅に着いた。出発駅と終着駅には駅長の役割をする人がいる。

私は、この息苦しい洞窟内で生きて行く人達は一日、二日、いやどれだけ外界の懐かしさを我慢できるか……！と、果てしない思いに捉われた。再び長いこと歩いていると今度は船着場に出た。洞窟内の船着場だ。我々はその船に乗った。二列に座り10名くらい乗った。各自に、紐で結ばれた電灯が与えられる。横と前を照らしながら船は進み、洞窟に似合わない岩の裂け目を通りすぎる。船着場に着くとちよっぴり生きた心地がした。今まで通ってきた所の途中にエレベーターがあった。それに乗れば上に真っ直ぐに昇る。洞窟内の道をうんと歩かなくてはならないが、こちらは列車に乗り、船にも乗り良かったと思った。空が見える所に出た。

次は観光滑動車というものだが、小さな鉄道レールに、一人乗りの玩具の自動車のようなものに乗って自分で運転して行くものだ。運転台の取っ手を前に押すと速度を出して走り、後ろに引くと停車する簡単な装置だ。12kmの洞窟内では、歩いたり、700mの距離を列車に乗り、700mを洞窟内の川の水を船に乗り、洞窟を出てから3.2kmの鉄道を走る奇怪な滑車に乗って、カーブを回るときには横に傾きながら疾走する気分はいいものだが、ひょっとして転覆して死ぬことになれば傘寿が亡寿になるのではないかとひやっとした。今までの洞窟内の12kmと、滑車の3kmをこなして来た歴史的事実を自慢する。しかし私一人だけなのか……？滑車に乗った実力は、私の妻を初めとして多くの女性達も勇敢に運転して来て大声を上げているのに、私一人だけ声を大にして叫ぶことか……？考えてみても可笑しいことだ……！

天林酒楼で昼食を済ませ、伏波山に行った。此処は頂上まで登ろうとすれば325段の階段を登らねばならず、海拔は無慮272mにも達する。笑わせる話だ。海拔272mといえばわが国では笑わせるな……ということだ。しかし、此処は平原で一番高い山なので有名だ。19名の一行は登る自信がなく、7名程が登ったが、325段の階段は骨が折れるものだ。疲れた、風呂で汗を流そう、と息苦しい中を鞭打ちながら登って行き下りて来る。何よりも、登れなかった人達が入口の休憩所で私を見て感嘆した。此処の少数民族では158歳の老人がまだ生存中だという。

## 傘寿は中国で（5）

5月26日（金曜日）晴

07:30にホテルを出てバスで飛行場に行く。途中で金竜苑飯店に立ち寄り昼食をとった。上海行きの飛行機は13:00にあるので時間は十分あった。

昼食の時間になる前に予め腹の中を満たしておこうと昼食を食べたが不便なことだ。食べたような気がせず飛行機に乗った。飛行機でも昼食が出た。昼食を二度も食べられない。食堂でサービスしてくれた小さな瓶に入った白酒を同行人が私にくれた。それをドリンク瓶に入れて機内に持って来ていた。38度のこの酒を一息に飲んだが無理な飲酒だった。



上海に到着して豫園という所に入った。庭園だというのが、退屈なときの市民達の休息処に適した所だった。韓国の徳寿宮のような所だといえいいだろうか……？しかし韓国では古宮を言うが、中国では昔の高官財閥の大人が住んでいた敷地だ。昔、軍事を起こし、創業すれば国が生まれ、多くの国が自分勝手に乱立し、広範囲に及ぶ形での手を打たず、多くの国の戦争があったのを三国志でも見ることが出来た。

今は56の民族が中国という国を成しているが、何をしてもうまく行かず日本に敗れ塗炭の苦しみを味わい、長い歳月を空しく送った亡国の国民精神を新たに反省し、暫くの時日があれば世界第一の国になるのだという信念を持って奮闘しているという。中国の改革開放により全国民が良い生活が出来るという信念が成功に導いているのだ。中国の国民は質素で、輸出を増やし富んだ国になろうとありったけの力を注いでいる。

上海ではカラオケ喫茶のことを上音という。キャバレーのようなものは音楽廳というが、楽の字と廳の字が新文字になっているので、ここに示すのは難しい。玉佛寺を見物した。玉佛寺には文字通り仏様が玉で作られていた。今日の休息処（ホテル）は上海宝隆館だ。

結局、上海 宝隆ホテルに2泊 5月22日、5月26日  
杭州 友好飯店に1泊 5月23日  
桂林 桂山大酒店に2泊 5月24～25日  
を過ごした。

どの国のホテルにも遜色なく、清潔で親切なホテルだった。

5月27日（土曜日）晴

9時にホテルを出発し、上海飛行場に行き、11:00の飛行機で出発し、13:15釜山の金海飛行場に到着した。

この程度で、私の傘寿記念旅行を中国で過ごした紀行文をお読みになった方は、果たして実感を持たれたでしょうか……？

聞いてみればそんなことだなあ

牛肉より豚肉の方が美味しいと言って多く食べられるようになった。テレビを見ていると、生まれて一ヶ月にしかならない子豚を茹でて食べていたが珍味だという。この肉が最も有名な所は全北の鎮安だと言っていた。昔からムジンジャン味が良いと言う言葉があると言う。

これを、お金が無尽蔵に多いとか、物が無尽蔵に多いという熟語だと思っていたが、今になって分かったことだが全北の茂州、鎮安、長水を茂鎮長と言ったということだそうで面白い話だ。豚肉の味がその地にあったのに、こんな遠いところにまで知られていたのかね……？と始めて聞く話に興味を覚えた。

しかし全国津々浦々に夫々珍味の生産物があるので羨むことはない。釜山には新鮮な魚が沢山あるではないか……？山の中でも柔らかい蕨などの山菜が豊かに採れるのはよく知られた事実だ。わが国は何処に行っても土質がよく、今では身土不二とまでわが国の農産物を最も良好な作物と見なしているではないか……。

農作物ほどわが国の産物が勝るものはない。外国産は我々の体質に合わないだけでなく、健康にも得るところがないことが多い。油気がやたらに多く、栄養分にならない。コーヒーや油気を多く摂る外国人には良くても、わが国の食生活である野菜類を多く食べて生きている体質には良いことはない。そんなことを考えながら茂鎮長の特別の味を奨めてみたい。我々は三枚肉で満足だが一度くらいは特別の味を吟味してみたいものだ。

## 東の窓でが鳴けば

夜明けに2階の居間に入って行くと、東側の窓から鶺鴒の鳴き声が騒々しく聞こえてくる。朝、鶺鴒が鳴けば嬉しい便りがあるといったかな……？と思いがからトイレに入る。つくづくと考えてみる。私に嬉しい便りなどあるだろうか……！年を取ると嬉しいことも別になく、待つ人もいなくなるほど鈍くなってしまふ。ソウルにいる子供達とは毎日電話をやりとりするが、特別嬉しいことがあるだろうか……？

随分昔に家を出た子供が一人いるが、便りがあっても嬉しい内容ではない。むしろ辛いことが起きるかも分からない。亡くなられた父母でも来られるのなら別だけれど……と考えたり、あるいはソウルにいる下の子が先週で1年に及ぶ癌治療を終えるので、その結果が良好だという便りだろうか……？などと色々想像しながら、その他の嬉しい便りを待つことにした。

鶺鴒は今までは吉鳥だと言われてきたが、今は農業に被害を与えるといって凶鳥に変わったのだろうか……？こんな突拍子もないことまで考えながら鶺鴒のことを思っている。それだから鳥は凶鳥から吉鳥へと鶺鴒の地位を奪ったのだろう……害虫を捕って食べるので農業の助けになるのだろうか……こう考えると、昨日の敵は今日の友となり、その反対にもなるように移り変わりが真に激しい。

## 夜明けに起きたらコップ2杯の水を飲む

誰でも、健康だといっても体のどこかに正常でない所があると思われる。大きな病気では糖尿病だとか高血圧のようなものは、先天的にしる後天的にしる病気持ちで苦労する人が多いが、便秘で苦労するとか胃腸病で苦労する人も多い。それから、年を取ると前立腺肥大症に掛かった人が大部分で、病院では手術を奨めている。

しかし、手術をした人の話を聞くと、尿嚢を着けて歩き回る不便さを訴える。私の知った人は前立腺肥大症のため、急迫したときには病院に行って尿を抜き取るという。そして便秘症で苦労することも小さな病気ではない。若い人は夜明けに起きて登山をしてくれば便秘症が若干良くなる。しかし年を取ると、きつい登山は出来ない。私も少し若かった時は毎日登山をすれば便秘症がなかったが、今は息が切れる登山はしないので便秘症になり、水を沢山飲めばよいと

聞き、毎日目覚め時に「エルトパイウォーター」という浄水器の水を飲めば万病が治るといので、直ちに買って毎日目が覚めさえすればコップ2杯飲んでいる。

そうすると便秘症に大いに効果があり、私の知っている人は前立腺肥大症で苦労しているのだが、毎日朝晩 Prosman というドイツの製薬を1ヶ月に6万ウォンも買って飲んでいたら、その水を3ヶ月間飲んだら、今では高い薬を飲まなくても良いと言う。

そこで私も朝コップ2杯、夜コップ2杯を飲むのは勿論、機会さえあれば水を飲んでいる。水を飲むのに大金が掛かるわけでもなく、私達はみんな若い頃から水をひよこの涙ぐらいしか飲まないと言って来て、生涯、水というものを沢山は飲まないのだが、今は、体に良いといので毎日飲む水の量が多くなった。

この水は人体の体質を変えさせるもののようなのだ。まだ実行し始めてから1ヶ月にしかならないが、何ヶ月間か経験すれば分かるだろう……！と思って見守っている最中だ。

## 雨に濡れたチャガルチ

元老人の教育は今日も続いていた。天気は昨日より暑くはない。5時までの教育も終え、明日を期してみんな散らばる。外に出ると雨が降り出す。呉さんが今日の教育担当で苦労したので、高麗堂でパンと牛乳で簡単な話をしながら雨宿りし、若干の休息を取って外に出た。却って呉さんがお金の支払いを済ませ再び外に出たが雨が上がる様子はない。イウィギユ候補が元老坊のシスオペに当選し、教育は明日まで続く。

明日は18期の最後の教育日だ。修了式は人数が多くないので、7ヶ月の教育者終了時に一緒に行くことにした。教育場の不備な点が多く、多人数を受け入れることが出来ず、募集をしなかった。何時になれば我々の教育場と事務室が確保されることか……？釜山だけの哀れな訴えなのだ。

雨は降る。私は呉総務と雨降るチャガルチに出た。タクシーに乗った。途中で呉総務を降ろして青鶴洞の家に帰ると雨は相変わらず降っている。今年のように雨が降らず、梵魚寺の溪谷の水が涸れることはなかったというのに大変なことだ。大雨でも降って乾き切った所を濡らしてくれたらどんなにか良からう……！と思いながら空を見上げて哀願するばかりだ。

## 人間を超越した妙技

昨日テレビを見ながら、人間の成しうる卓越した妙技を感嘆して見物した。野球のボールを投げたり受けたりするのを、逆さにぶら下がり正確に受けて投げてバットで打つのは人間の行動からは想像できない妙技だった。そうかと

思えば13階の高い手摺からローラースケートを履いて思い通りにぐるぐる回り、回りながら愛人の所まで行って一緒に妙技を発揮するのを見て手に汗を握った。ピストルによる正確な射撃で0.01秒の速さで正確に当てるのは人間を超越した素早い動作だ。

こんなに面白いテレビを見ながら時間を過ごしたが、北韓の人が来韓した時のいわばサーカス公演団の妙技もまた珍しい公演だった。空中で自由自在に色々な妙技を行うので、感嘆の声を連発しつつ見物した。わが民族は優秀な民族であることを今更のように感じた一日だった。北韓との外交は、政治よりも演芸と文芸を通じてのほうが早いということを実感した。それだけでなく、体育での優秀性が毎日報道されるのも、このような国民の活動が背景にあったのだ。

## 夕陽のブルース

終日雲に覆われた空は重苦しい気分を胸の中まで染み込ませ、何かしこりの残ったまま去った人のような、欲求の満たされない苛立った気持ちで一日を送ったみたいだ。昼に集まりがあるので出掛けたが、いつも行く食堂が門を閉ざして、隣の風呂屋の前にある自動販売機の椅子に座ってコーヒーの蓋を抜いて飲みながら、友人達が来るのを待つ間こんなことを思い出した。

去る10日の日に大邱駅で車を待ちながら待合室の椅子でうとうとしているうちに膝が熱くて目が覚めた。30代後半のおばさんが自販機からのコーヒーの蓋をとって混雑した人達の間を掻き分けて来たが、私の前に来て眠っている私の洋服にコーヒーをぶちまけてしまった。こともあろうに私が大邱まで旅行するというのでクリーニング店で綺麗に手入れした洋服を着て行ったのに、そいつのコーヒーで恥さらしの目に会い本当に運の悪い日だった。

今日クリーニング店に預けるときに調べてみると、コーヒーの染みは洗濯してもよく取れないと言っていた……その女性は私がそんなに憎かったのかね……私はちり紙で拭ってくれたその女性の手が憎くて、「退きなさい……そんなことをしても役には立たないから止めなさいよ……クリーニングに出せばいいから」とつっけんどんに言い、心の中では、若しハンカチで拭いてくれたのならいざ知らず、ちり紙で拭いたら済むことなのか……?と思いながらその席から抜け出してしまった。

そして、遠くの椅子に座っているシンナネさんが見えたので、そこに移動した。だが私はクリーニングに出せば問題ないと思っていたが、クリーニング店でも難しいというので洋服一着を台無しにしてしまったのだ。

待っていた友人達が来た。そこの中国店に入った。美味しい肴に蒸饅頭を注文し、暗い気持ちを紛らそうと焼酎を1瓶は飲んだ。しかし効き目がなく酒にも酔わない。あれやこれやの話をして塞いだ気持ちを紛らせると、太陽は西のほうに隠れ淡い光だけが残っているなあ。

## 釜山駅広場の風景

末っ子が釜山に来るというので、変わったこともなく元気なのだろう。6時27分のセマウル号便に合わせて駅に出掛けた。だが30分の時間の余裕があり、ステンレスパイプ製の代用椅子に座り列車が入ってくるのを待っていた。座ってから1分も経たずに50代くらいの紳士が丁寧に挨拶しながら横に座る。「人間は100年生きることが出来ません。死んでから行く所は二箇所あって……一つは地獄で、一つは天国です」と始まり、優に20分間演説が続いている。

私は内心、キリスト教に奉仕しているのだと分かった。この人の勢いの良い話し振りが力の抜ける頃、私が一言言って効果のある方法を考えた。「はい、有難うございます。私も同じです。私も信じていますよ」というと、「家族全員が信じなくてはなりませんよ」「そうです、家族全員が信じています」と言うと、やっと「有難うございます」と言って席を立つ。

この場所は、列車から降りて駅から出て来る道だ。ソウルから来る人を待つ道の要所で、杭を打ってある圏内を抜け出すと海苔巻き屋、子供の玩具屋など、そして用もなくあちらこちらと行ったり来たりする野郎達で一杯だ。待合室の椅子のある場所にはテレビが置かれていて、どれも南北会談のニュースを上映している。

6.25\*は事変の痕跡を物語っていて、また6.25には和合の象徴である統一の第一歩として、南北頂上が会談を終え調印もした。わが国の統一は4千万の人口が7千万にと大きくなり、国力が強化され、何処の国にも屈しない強国になることであり、何時までも努力せねばならず、国民の精神が改造されなくてはならないのだ。釜山駅広場は列車に乗ったり降りたりするのに利用する駐車場の役割を担う前に、市民の公園のような役割をする遊び場であると同時に交通の交差点にもなっているのだ。

訳者注：6.25は「ユギオ」と発音し、1950年6月25日朝鮮戦争勃発した日。

## 油虫に驚き眠気が覚めて

明け方のミサに出掛け、睡眠不足で眠気を催し、椅子で暫くの間眠りを補充していた。子供達は昨日ソウルに行くと言ったが、雨が降っていたので自動車の速度を出すなど何度も話した。今日は帰ってくるが、雨ではないので安心だが、それでも夜8時になり携帯電話を掛けてみると梁山にきているというので安心したが、3時にソウルを出発し、6時間もの強行軍なので心配だった。

昼食に酒を飲みカラオケで喉が破れるほど声を張り上げて帰って来たせいか、喉が破れ心もほのぼのとほころびたようだ。夜中に飲み水を取りに階下の台所に下りた。台所の電灯をつけ入って行くと親指くらいの大きさの大きい油虫が

---

\*

矢のごとく通り過ぎる。驚いて捕まえようとしたが逃げてしまった。

2階に大声で叫び、エフキラーを早く早くと持って来させ、台所、居間、風呂場などに散布したが、現れず気分がすっきりしない。こんな害虫がいなければどんなに良いことか……！こうする中に今夜はちゃんと眠れない。このまま日付が変わるのだ。何かしら大小の事件が人生に記録を残す。その間、良い事件もあれば悪い事件もあるが、良いことを望む。日ごとに行動が反復され平凡なことのようだけれど、大小の屈曲により発展の速度が変わる。たゆまず、より大きな目的達成のために努力すれば、大きな屈曲はなくとも変動が生じ発展する。

## 噉り泣く夜雨の音

夜中に自動車の音が水の音のように聞こえ、雨が降っているのに気が付いた。天気予報は既に雨が降ると予報していたが、先ずはこの暑さを冷やしてくれるので嬉しいことだ。こうして生きているが、100歳まで生きるとすると同年配の中で一人だけ残り孤独な人間になるということか……？多分90歳まで生きるとしても、それでも同年配者は一人になることだろう。だから誰も彼も先に行ってくれと見送っておいて最後に行こう……！しかし、見送ってくれて悲しむ人が居ずに孤独に旅立つことは寂しい人生だと考えれば、早く行きたいとも思う。

だが妻より先に行く人は幸せな人よ……！一人残って余生を楽しむことは出来ない。昨日私はコンピューターの卸売り商店街を見物した。何処に行っても写真を撮って、テレビに入れて、私が歩き回るのが再生されるのを見たかったからだ。しかしコンピューター製品では取り扱っていないくて、カメラ店に行けばあると言うのでカメラ店も見物してみた。だがそこにもなく、三星電子の代理店を訪ねた。

三星代理店には沢山の製品が陳列されていて価格も相当に高い。しかし、ある友人が持っているソニー製品とはデザインが異なるため気に入らなかった。大きさが最小の型を私は欲しいと思っている。ソウルでいつかちょっと見たことのあるそんな型はなかった。ソウルに行く用事のある時行ってみようかと心に決めている。ある友人が、私がソウルで鞆を買っていると、そんなに年を取っているんだから、どんなものでも使えばいいのに……！というので、私は年を取るほど良いものを持たなくてはいけないんだ……！と言った。90歳の老人が壊れてしまった鞆を持って歩いていると乞食扱いされるのではないかね？老人であるほど風呂にも2倍は余計に入り、衣服もしょっちゅう着替えて生活しなくてはならない。70を越した老人はなんの役に立つのだと言って身体障害者扱いをしている現実を見ると、まともな躰を受けてないならず者の言う言葉だろうな。自分が70歳になれば過去のことは忘れてしまって自分は立派だったと言うことだろう……。

可哀想な人間だ。時が来れば分かることだ。幼い時から父母なしで育ったと言ってもその人次第だろう……。などと考えて夜明かしをしながら思う。噉り

泣きながら万物を濡らしている雨は、そんな哀れな人間が可哀想で泣いているのだらう……。

## 落雷は2000年下期の信号のようだ

1時半に寝た。強力な光が窓を照らし続け、東の山が一つ壊れたような雷鳴が聞こえ目が覚めた。デジタル掛け時計を見ると3時半だ。2時間寝たことになる。雨は土砂降りに降り注ぎ、幼い頃母が、雷が鳴るときは真っ直ぐに上向きに寝ずに横を向いて寝なさいと言われたことを思い出し、急いで横になって寝た。

私は起き上がって電源のスイッチを消し、卓上スタンドだけ点けておいた。雷鳴は遠くで聞こえたり近くで聞こえたりしながら、人を怯えさせている。私は今や眠りを放棄して、目覚めたまま横になりながら空想している。今日やることは何だ……？と思いつつ、こんなに雨が降るから……と思いつつ頭を整理してみる。そうだ！平仮名の編集の練習をすればいいだろうな……とっていると、4時半になった。起きて十五祈禱をする。十五祈禱は約20分掛かり、ロザリオ祈禱も20分掛かるので40分間の祈禱になる。私は十五祈禱を毎朝欠かさずに1年間行って、7月26日で満1年になるわけだ。あと1ヶ月ある。1ヶ月後からはロザリオ祈禱だけ永遠に死ぬ日まで毎日起床とともに実行なくてはならない。体質になっているので、毎日しなければ気持ちが安心できない。まるで私が毎日1件、人に笑われる幼稚な文章でも掲示板に上げなければならぬようなものだ……残りの下半期はどのようにして安らかに幸福な気持ちで生きて行くのか？と考えるだけだ。

## 子供はおうむのようなものだ

子供はおうむのようなもので、大人がするとおり真似をする。母親や父親が喋る言葉をそのまま学ぶからだ。その上、兄弟や仲間達と遊びながら、悪い友達言葉遣いを学ぶ場合も多い。母親が子供の手を取って、道路や横断歩道で信号を待っている人達を無視して、自分だけが偉そうに赤信号でも横断したなら、母親は優れた人間だから横切ってもいいのだと思う。それで、大きくなっても母親が教えてくれた通りが立派な人と勝手気儘に生きて行く。他人が「しない」ことを自分はすることができるという考えは、他の人より優れていると考えているからだ。

家庭生活が教育の根本になくてはならない。最高学府を出たからと言って何なのだ……？この国では実力がなくて行けなかった大学を、お金で外国に送り出し留学させて、それを大いに自慢して何なのだ……？他人が「しなかった」ことをするのが優れた人だと見なし、他人が『出来なかった』ことをする人には実力がなくてなれない。真に可哀想なことだ。おうむを作ろうとする父母は

他人の『出来ない』ことを教えてやらなくてはならないのではないか……。

朝飯を食べ、暫く眠って目を覚まし、書きかけのこの文章を仕上げることを思いつき、文章を続ける。朝、私は書き掛けで眠くなり、暫く眠って、たった今起きたのだ。2時間しか眠らなかったのも明け方のミサには行くのが煩わしくて、ご飯を食べながら少量の酒まで飲み、こんなことになったのかね……？と思いながら、今日は平安な一日を送りたい。

## あまりの暑さに3つの扇を動員する

扇風機はいつも就寝の前から作動させ、タイマーを2時間にしておく。しかし夜中に暑くて再び作動させるのだが、今日は夜中に目を覚ますと3時だった。扇風機は止まっていて……暑いので風呂に入ろうかと思ったが、5時に入ることにして扇風機を回す。眠気も覚め卓上のスタンドをつけた。更にエアコンもつけ、それから座椅子に座って扇子で扇いでいるが、自分の格好が滑稽で一人で微笑する。扇風機にエアコン、そして扇子の三扇……動員できるものは全部動員した。

人間と言うものは少しでも所有欲が生じると、両手に餅を持っていても不足に思い不満である。同じ暑さで苦勞しても、エアコンのない家庭は多い。電気を節約しなくてはならないと思いつつも、1時間回してエアコンを切った。扇風機だけつけても十分なのを、エアコンは1時間つけたら1時間消すと言うやり方にしよう。今日もまた始まる暑い天気にも勇敢に生きて行こう。

## 酒席での雰囲気盛り上げよう

どの酒席に限らず、酔いが回れば雑談の場所が多重になり騒々しくなる。そんな中で打ち解けた話が行き来するのが酒席の特徴だ。そうするうちにもっと親しくなり情が濃くなって行くようだ。そんな光景が酒席で酒を飲む興味を盛り上げてくれるとともに、もっと酒の味を高め、酒席を楽しくしてくれる。しかし、人によって飲酒の実力と健康に違いがあることを考慮して調節しなければならぬ。調節せずに飲めば、自身の言行を自制することが出来ず失敗することがある。そのようなことで楽しい飲酒を遂に果たすことが出来ず失敗に終わることになる。酒に酔えば話し声も高くなり、同僚や他人に迷惑を掛けることになる。

だが酒に酔ったと言っても、そして姿勢を正しく話し声を静かにすることは出来なくても、他人の耳に甚だしい刺激を与えなければ、むしろ雰囲気盛り上げることが出来るのだ。人それぞれ習性上声が高い人は多い。日頃は大きな話し声で騒いでいても、元来声が高いので特に拒否感を生じることがないとしても、飲酒のときの声はそのように思わない場合がある。

それ故、自身の習性がそうだと思えば、酒席での処世のあり方を考慮して是



正すれば如何なものか……？と考える。そうだと思う元老人は自信の位相を高めるために努力することを……。

整然としていて埃を被り、雑然としていて埃がないということは

これは、整頓は良くされているが使われていないのは、しょっちゅう使用されているが整頓されていないのに及ばない、と言う意味だ。特に受験勉強をしている学生達に適用される言葉でもある。

本を父母にねだって買ったが、1ページも読まずに冊数を数えるだけなら、浪費であるばかりでなく勉強に趣味のない学生なのだ。社会生活でも似た例が多い。にこやかな顔をして誠意がなく、または、推進する意欲なしに事業を行えば、その商売がうまく行く訳がない。

私は、私が進めている随筆と詩の集会での活動を通じて、指導部の誠意に訴えるものである。名ばかりの発起人として始めることになったが、その中の一部は自身の特技を指導して発展を図ることが、知能を会員に伝えて上げる機会だと考えている。技術者が自己の技術を伝授してやらない根性を、老後には捨てなくてはならない。

雨、雨、降り、降り

今日は後30分残すだけだ。私は灯を消して寢床に入った。稲妻がぴかっと光る。しかし遠方で稲妻が走るのか雷鳴は聞こえない。雨がかなり降っているようだ。目を覚ましてみると4時を過ぎている。眠っていると時間が経つのが分からないものだ。ずっと眠ったままでいると、千年過ぎても万年過ぎても、一日しか経たないのと同じなのだ。それは本当に便利なので私もそうしてみたい。千年後に眠りから覚めたら世相がどうなっているだろうか……？一度やってみることは出来ないものか……？と考えると可笑しくなったが、5時になった。

下の階に降りた。風呂場で湯と水を配合して首まで浸かり、窓の外に見える西北の空を眺める。真っ暗な空は灰色に変わっていく。空を眺めながら考える。掲示板には色々なニュースがあり、情愛の深い文章が載るかと思うと、印象の良くない文章も載る。これは和が破れる好ましくない現象だ。

我々の作文である舎廊房は、1) 国に有害な文を書くのをやめよう。2) 社会に有害な文を書くのをやめよう。3) 他人に少しでも有害な話は書くのをやめよう。4) 低俗な文は書くのをやめよう。5) いつも自分はへりくだり、他人を持ち上げる謙虚さを持とう。こんなことを考えてから浴槽から出て石鹸で体を洗う。2回、3回やってもう一度浴槽に入る。今日の風呂の湯加減は体温に合わせて配合した。私は風呂の湯が熱いと長い間我慢が出来ない。忍耐力が足りない私は息苦しくて、長くて5分間我慢できるだけだ。しかし、風呂場の

壁の時計を見ると、6時15分になっていた。こんなに風呂に1時間と15分の間入ることは有史以来初めてだ。私は今日の記録を自負しながら風呂場から出た。

雨は降っているが、だんだん雨足が弱くなる。水不足でもうちょっと降ってくれたら……と言いながら、もっと降ることを望んでいる。今日、私は外出の計画がないので、他の人が雨に会おうが会うまいが、私だけが傘を持って歩かず済むので……雨、雨、降れ、降れ。と言いつつ今日の朝が始まる。もう7時過ぎだなあ。

## 柿の木の下で

雨が上がり、見下ろす道路は綺麗に洗い清められ、自動車が相変わらず一杯に駐車して夜を明かしている。東の空は薄明るく明け染め、今日の私の活動が始まる徴だ。今日は眼を覚ましてみるとデジタル掛け時計は3時13分だ。道端で自動車のエンジンを掛ける音で目が覚めたのだが、まだ暗い明け方から勤勉に車を動かす若い人の活動に祝意を表しながら起き上がる。

昨日、娥の話を読んだところ、顔が脹れたので病院に行って注射をしてもらうことにしたが、看護婦が注射が下手で腕に青い痣が出来たので、蚊よりも下手な看護婦だと私も思った。蚊が注射液を持って、血を吸う前に注射液を入れて娥の病気を治してくれたらどんなに良いことか……と思って明け方から笑ってみる。娥もやはり、蚊よりも腕の脈を探すのが下手な看護婦だと恨んだだろうか。私も同じく恨み嘆いたのだ。幸い、変わった病気ではないとのことだったので良かった。

私は明け行く空を眺めながら柿の木の根元に下りていく。もう柿が鈴なりに実っていて、卵くらいの大きさになった。その間に半分は落ち、残ったものだけでも100個はあるようだ。一つの種が地面に落ちて木になって20年にもなる。古い木なので果たして今からどれだけ生きて行けるのかな……？と思っ、柿の木の下の花を撫でてみる。この花は陽が中天に昇れば満開になる。

## こおろぎ

西北の空が風呂場の窓を通して鮮やかな淡青色に見える。今日は晴れの天気だろう……と独り言を言いながら色々の宿題を思い出してみる。何となく悩みごとの多いこの頃、酒でも一杯やってくったりと昼寝でもすれば忘れ去るだろうか……？と思いつつ過ごしている。今朝は集まりがあるので、そうでなくても酒を一杯やることになるので、良いことなのだけれど、予め警戒する。酒を適当に飲めば薬になり、多量に飲めば毒になることをどうして私が知らないことがあるのか……。だから、いつも私は酒を警戒している。3杯が適当で7杯は余りにも多すぎるということを私が知らないと言うのか！

だから限界を超えないようにしよう……こう考えながら湯の中に首まで浸り窓から見える空を眺める。徐々に淡青色は薄くなり、空色に変わって来ている。30分の間、体温と同じ湯温で我慢するのはたやすいことだ。湯船から出た。湯船の壁を、とても小さなこおろぎが這い上がっている。私は湯船に下りて来れないようにしようと、こおろぎの周りに湯を振りかけた。

それなのに、こおろぎは湯に落ち込み、死んだのかぴくりともしない。パガジで掬って床にそっと注いだ。こおろぎは元々小さいので目に見えない。死んだようだと思い、湯にもう一度入るときにはそのことは忘れてしまっていた。今朝40分間の入浴を終え、出て行こうと浴室の戸を開けようとする、そのこおろぎが生きていて、戸の隙間に入って来ようとしている。私は衣服で風を切って逃げるように出て来た。

## スンニョン\*と冷水

ご飯を食べれば熱いスンニョンを飲んで初めて気持ちが落ち着いた。一生を通じて私はお焦げが好きで、熱いスンニョンが好きだった。ところが近年食性が変わり、食後に冷水を好んで飲むようになった。本当の話、晩年になって狂ったのかな……？更にそれよりも氷水を好むようになった。極端から極端へだなあ！突然熱い湯が氷水に変わるのだからね……アイスクリームやアイスケーキも食べなかったのに……今はよく食べるよ……時代が変われば人も変わるようだ。良いことか悪いことか私も分からない。

それから、少し前にソウルにいる孫娘が買ってくれた浄水器から熱湯と冷水が出てきて便利だ。熱湯は85度を維持しているのでコーヒーを入れて飲むのに便利だし、冷水は氷水と同じ冷たさなので冷やしコーヒーを入れるのによく、氷水を飲むとさっぱりして本当に便利なので、家内は時折ソウルの孫娘を褒めている。

今朝も私はコーヒーをそんな具合に入れて飲み、冷水も飲んで上がってきた。壁掛け扇風機を直し、カーペットをクリーニング店に出すので、たった今ごろごろ巻いてクリーニング屋さんが結んで出て行った。今日も空しく過ぎることはないようだ。

訳者注：釜の底に残ったお焦げに水を加えて温めたお茶代わりの湯

## 暑いけれど大雨でなくて幸い

天気予報が全国的に大雨が降ると言うので若干心配しながら外出の準備をした。雨傘を持って出掛けようとしたが、天気はうららかで安心して外出した。だが、幸いにも元老坊の月例会に出席し、天下壮士を経てカラオケで大いに騒いで帰って来たが、遂に雨は降らずじまだった。

---

\*

中部地方は豪雨注意報が出るようだったので心配になり電話を掛けた。ソウルの息子の家と娘の家に、大雨が降っているのではないかと聞くと、孫の奴が電話に出て、雨は降っていないと言う。娘の家に掛けてみた。やはり雨は降らず、少しぼつぼつしているとのことだ。天気予報が当たらないことは問題ではなく、今日の行事が台無しになるほど雨が降ったらどうしようかと思いつつ、明日の天気にも神経を使う。明日もやはり会合があるからだ。天気予報は明日まで雨が降ると言っていた。その上、夜までの会合行事は雨が降ると更に困難だ。私は会合が重複するときに本当に神経をすり減らす。更に26日は、1) 囲碁同好会と、2) 逓友会の役員改選と会長重任による理事の相見の礼があると、今日通知が来た。難しいことだ。どう弁明しようか？ 囲碁同好会に行かなければ蒼岩君が寂しく思うだろうし、逓友会に行かなければ諮問委員である私が抜ける……とすれば寂しいと言うだろうし、その日の風の吹き回しで、帆を上げれば順風が吹いて後押ししてくれるだろう。

## 雨粒が落ちているから傘を持っていきなさい

明け方のミサに出掛けようと玄関に出ると、娘が、お父さん雨粒が落ちているから傘を持っておいでなさいと言うので、では傘を持って出掛けるか……と思いつつ空を見上げると薄明るい。

昔、父が外出するときに、東の空が明るければ雨は降らないといったことが思い出され、傘を持たずに出掛けた。やはり昔の人は智恵があり、ちゃんと分かって生きて来たのだ。みんなは雨が降るものと、傘を持って出て来ていたが、私一人傘を持って来ていなかった。雨は降らず、最後まで楽に家に帰って来ることが出来た。亡くなった父の言葉のお陰で今日も助かったわけだ。亡くなってから46年が経ってもまだ父から教わったことが効き目があるのは感慨深い。

今日は風が少々吹いていて暑さも少し弱まったようだ。部屋に入って直ぐ窓を開け放し風を入れる。窓を開けるや否や、風が矢のように部屋に入って来る。さっさと衣服を脱ぎ涼しい風で体を冷やし、キーボードを叩く。今日の私の日課が始まる。庭には去年私が順天から持って来た無花果の木の沢山な実が大きくなり首を見せていて、背の高い椿桃が昨日まで枝だけ伸びていたのが、今日は白い花が沢山咲き空高くアクセントを加えている。来年くらいには無花果が塀を越えて、道端を通る人達がこっそり近付いて無花果を食べることだろう。道端に無花果が実り、通行人が取って食べるのを誰が咎めようか……。

## 造花

近頃は飾り付けられた花を見ても、近くに行っても詳しく見なくては生花なのか造花なのか確認できない。公園墓地に行けば造花を挿していない墓はないほどだ。造花を専門に売る花屋も沢山ある。

4時に起きて下の階の風呂場で温水を調節していると、壁に掛けておいた造

花が目映る。黄色い花、赤い花、白い花に青い葉の四色で作られ、風呂場を飾っている。2階にも造花を挿してある。生花は長く咲いても2～3日で、それを超えれば萎れ色褪せてむしろ醜くなる。それで私は造花を好むようになった。孫娘はいつだったか造花を見て、何処かの喪房か墓地で見たことを思い出すとって好まない。しかし、しょっちゅう替えてやらなくてはならない生花は不経済で、取り揃えることも難しい。

我が家の風呂場とトイレの造花は、今思い出すと3年になるようだ。2階のは私が買って挿したもので、下の階のは娘が挿した造花だ。しかし日陰で過ごしたもののなので、生花に水を与えるように時折シャワーを掛けて、いつでも生き生きと見え色もあせずにいる。

私は今朝湯の中でその花だけ見ながら40分を過ごした。湯から出て石鹸で体を洗っていると、蟻くらいの虫が、床上の丸く飛び出した物の周りをくるくる回ってばかりいて飛んで行かないのを見て、蟻が篩の丸い枠を回るのを思い出しながら、水を掛けて下に落としてやった。造花をもっと趣のある綺麗なものに取り替えてやらなくてはならない。と思いながら風呂場を出た。今日は2箇所も行かなくてはならないので芋の肌着を着た。2箇所はどちらも役員会だ。

## 可哀想なおろぎの子よ

風呂に入っていると床でおろぎの子がごそごそ這っている。私は水が掛からないように用心しながら風呂に入っている。壁に掛かっている時計を見ると01:00になっている。石鹸で3回も洗ったのは、沢山汗を掻いたのを洗い流したのだったかな……体がべとべととしていたので妻が風呂に入って来いと命令する。そう言われなくとも風呂に入って寝床に入るつもりだった。湯船の中で首だけ出して微動もせずには私は何を考えているのだろうか……？

過ぎた何時間前の事と、これからしなければならぬ事などだ。そうこうするうちに、おろぎの子を見つけたので、笑い話の種になるかな……私は湯船から出た。締めくくりの動作は手拭で体を拭うことだった。それから湯船の中に綺麗な水を全体に振りかけ清掃して出て来なくてはならない。洗面器で水を汲んで全体に振りかけるのが清掃だ。そしてさっぱりしたと思ったら、あっ！そうだ、おろぎの子は何処に行ったのだろう。明らかに下水道に水と一緒に流れ去って行ったのだ。「可哀想なおろぎの子よ」大洪水に会って水に流されて行った水災民を思う。虫にも生命があるのに、その上私が好きなおろぎの声は、秋の夜道に行く人を慰めてくれる楽士なのだ。私の無関心さから楽士の生命を奪ったのだなあ……。

## 石橋も叩いてから渡ろう

複雑な人生では絶え間ない事故の中でびくびくしながら生きて行くのが運命

だ。何年も前のソウルの国際郵便局の火災だとか、最近でもエゴの修学旅行のバス事故だとか、幼稚園児の旅行中の火災事件など……すべてが人災であり、前以て予防していたらそのような事故は防止し得たのだ。石橋も叩いてから渡ろうという言葉は、このような事故を未然に防止するため、すべての物事を事前に検討し、事故防止の徹底的な措置をしなければならないということだ。

国際郵便局では多くの貴重な郵便物が山積された事務室でストーブを焚いて、職員が1, 2名徹夜勤務をしながら居眠りをしている間に火災が発生したという話だ。そんな危険な事務室管理で火が出ないことがあるだろうか……修学旅行のバス事故も、トラックが反対側から中央線を越えて疾走して来たので衝突するしかなかったのだ……なんで自分一人だけ急いだのか？みんなが同じく忙しい旅行だ。判断には、運転者が最も重要な決定をし執行する速断が必要だ。順調な人生行路とは、このようなことなど一つ一つ考えて決定をし、用心に用心を重ねながら、命ある限り健康に生きて行かねばならないものだ。私の友人某氏は部屋の中で椅子に上がって棚の上の物を下ろすときに、椅子が倒れ板の間に落ちたが、骨折で長い間の病院生活で、沢山のお金も使い、長い歲月苦勞もした。椅子でも正しく置いて使用しなくてはならないのに、全くバランスも取らず上がったため、分かり切ったことだ……もう一度石橋も叩いてから渡ろう。

## 泥棒猫の乱入

2ヶ月前に空き家になった隣の古い家に十数匹の泥棒猫が集まって来て、隣の屋上や庭を我が物顔に走り回り、食べ物を見つけると銜えて行く。それで、夜中でも屋上で石を転がす気配がするとか、庭でも人の気配がするときには、猫の仕業だと断定してしまうことが多い。何時だったか婿が中国に行って八歌鳥という鳥の半分くらいの大きさの鳥を買って来たが、その歌声が8種類の鳴き声を出すというので八歌鳥というのだと聞いた。孫娘が大学図書館で調べてみると鳥の名前は勿論、意味もその通りだという。ところで、ある晩のこと、うっかり忘れて家の中に入れて置かなかったので、鳥籠をひっくり返して鳥を泥棒猫が捕らえて行ってしまった。それからは、泥棒猫だという憎悪感を持つようになった。

ところで、今朝向かいの部屋で、部屋の掃除をしていた長女が叫び声を上げるので行ってみると、黄色い泥棒猫が部屋に入り込み、今度は私の部屋に走り込んできた。エアコンの上に上がり、再びエアコンの後の狭い隙間に走って下りたので、エアコンの上に陳列してあった苦像（十字架像）をまさかさまに落とし、聖母像まで、それに、陳列品全部を滅茶苦茶にしまった。先ず泥棒猫の奴を外に追い出さなくてはならないので、窓をすべて開け逃げ道を開けておいた。約10分間無我夢中で戦争をして、猫は窓から逃げ戦争は終わった。雀が部屋の中に入って来ることは時々あるが、猫が入るのは初めてだ。私は一人座って考えてみた。不吉なことだ。それでは今日はあらゆることに用心しなくては……と思い、何処にも出掛けず部屋の中の統帥となることにした。

## 不幸なのか幸福なのか

毎日何回も往復する裏通りは、自動車が通る大通りを避けて通り抜ける道だ。この路地にも主に女性用の衣料店が一つあり、その向かい側には酒場もある。

この酒場は名ばかりの小さな瓦葺の家だ。その瓦葺の屋根に続けて天幕を幌馬車風に張り、酒を売っている。暗がりの酒場の客席は、テーブル2脚と椅子が各々4脚ずつあるようだ。しかし客は多く、日雇い仕事を終え仲間達と一緒に訪れるその人達には一番楽しい休息場所のようだ。時々歌も歌い、酔ったひと時を楽しんでいる人達には幸福な時間なのだ。

その向かいの衣料店を一つ飛ばした家が酒場の主人の家のようだ。その家にしょっちゅう出たり入ったりする40代の男がいるが、いつも酒場の前で椅子に座っているので主人のようだ。顔は黒く、体格は骨ばかりで皮だけが残っているこの男は、することもなく酒場の前で店を守っている。多分女房が酒場の商売をし、自分は道端に座って一日過ごす。我々が見ると不幸に見え、客観的には明らかに不幸だ。

しかし、その人は幸福な生活を送っているのだと思われて来た。一日中音楽をかけて、楽の音に陶醉しているように見え、私は、あの人はこれに幸福を見出しているのだと思った。その上、その男は身体的な欠陥がある。首が前に垂れ、病的だ。そして話す言葉もちょっとはっきりしない。だが本人が全てのことを度外視して現実を楽しんでいれば、それが幸福というものだ。

## 何が聞こえたのか

2階から下りて見ると、我が家から近い道端に数十人が集まっていて、パトカーもぴっぴっと音を鳴らし、警察官4、5人が1台の自動車を調べているようだった。何事が起きたようだ。道端に出てみた。道には自動車が一杯駐車していて子供達がうようよ遊んでいた。「どうしたの?」と聞くと、隣近所の人達はみんないぶかしい顔をしている。警官は全員その車を取り巻いているだけ……対策がない様子だ。その訳は、自動車のトランクから変な音がするので子供達が警察に通報したのだという。

だが、近所にいる鍵の技術者を呼んでドアを開けたが、後部トランクのドアを開けられないというのだ。その車は、車が置かれている家の所有だが、その家は留守をしている。それに、後部トランクは技術者にも開けることの出来ないリモコンで施錠してあるのだとも言う。そのトランクの中から音がするそう。私が行ってトランクを叩いてみた。すると、中からやはり叩く音が聞こえる。不思議なことだ。近所の人の中に持ち主の携帯電話の番号を知っている人がいて、警察が電話連絡をしたが、何処か遠くにいいのか、やって来ない。

私は草臥れて家に帰った。この後のことはもう知らない。明日になれば分か

るだろう……と思っていたら、もう日付けが変わっていた。疲れていた私が眼を覚ましてみると、テレビはつけっ放し、卓上のスタンドは明るい。時計を見ると日付が変わり、もう1時になっていた。どうせ一人倒れて眠っていても私の勝手だが、今日の幼稚でお笑い草の音の話でもキーボードで叩いてみるかと思ってコンピューターの前に座る。

今日は暇な時間を過ごすことになりそうだ。では昨日学んだことなどを整理しなくてはならない。コンピューターはだんだん難しくなる。そうはいつでも毎日叩くPC通信だけやっても下らないので、他の利用法を考えていたのだ。スキャナーで遊んでみようかという気持ちはないが、私が旅行中に撮った写真を友達に見せて上げる面白さを味わってみることに意義があるのだ。アウトLOOKには少し慣れて来たので他の欲が生じて来たのだ。メールに写真を添えて送る楽しみも無視できない。アウトLOOKは文字も大きく出来るし、文字の色も自由自在だが、動画も面白い。だが石頭の私に目的が達成できるか疑わしい。

しかしコンピューターなるものを学ぶ面白さというものを知らなくてはならない。何故！今までやってきたことだけ毎日やれば、容易に実行できる。だが新しいプログラムができて、好奇心から学ぶ面白さはやってみた人だけが分かるものだ。コンピューターは遊びだと見なし、靈妙ならざる玩具扱いする精神には私は反対だ。生産性を高めるといふことが含まれていなくてはならない。

## 銃より刃物がもっと怖い

銃を携行していた巡査は銃を使うことが出来ないから用いなかったのか？刃物がありふれたものだから怖くはないが、銃はちょっと触っただけで弾丸が飛び出すようで怖い。西部劇の映画を沢山見たためにそう思うのかもしれない。今日は娘がミサに行くといって出掛けた。泥棒を捕らえようとして警官が泥棒の刃物で襲われて死んだということだったかな？それで、そのミサに参列するため行くというのだ。

ところで、ピストルは使うために脇腹に携行して巡回しているので、「矢のごとく速い」という言葉は、今では矢よりも弾丸のほうが速いから、『弾丸のごとく速い』というべきか……今や、弾丸よりも速い、『刃物のごとく速い』といわねばならないのだろうか？銃を持っている人よりも刃物を持った人のほうが速くて、銃を持った警官を殺したとは信じられない。

だが、人間の運命だと片付けているが、この世の中はどうしてこんなにも人間を生き辛くさせることが多いのだろうか？泥棒がうようよしている近頃は、目を瞑っていれば鼻を切っていくと言うくらいで……家を守るときも、ピストルは持たないにしても、野球のバットくらいは身につけていなければならないようだ。そして剣道や？拳道は必ず学んでおかななくては……怖くて生きていけない。人間を苦しめることはそれだけだろうか？

今朝もトラックに野菜を積んで大声でわめきたてるマイクの声が、鼓膜を破るほどの音量で1時間も町内を何度も回って、みんなを苦しめた。だが取り締まる機関もない。他人を苦しめる人間は根こそぎ捕まえてしまえと私の頭の中



だけで思うのだが.....実践してくれる人はいない。だが、とんでもないことに対して文句を言いたいことは多い。